

授業概要

私たちの生きる社会がどう成り立っているか、どんな仕組みか、社会科学を学ぶことは、財をおさめる「理財」や、世を治め民を救う「経世済民」（経済の語源の1つ）を学ぶことである。高度に発達した現代では、日常生活のすべてを自分自身だけでまかなう自給自足は極めて難しく、私たちの日々の生活は財・サービスを生産・取引・消費する社会的分業で成り立っている。財・サービスを買いたい人と売りたい人はどう出会って、何をもって取引し、おのおのどれほど満足するだろうか。

この科目では、「経済学は社会科学の女王」と呼ばれるような経済学の「伊呂波の伊」を学修し、大学4年間に社会科学を学ぶ第一歩とする。

授業計画

第1回	ガイダンス（この科目で学ぶこと、授業の基本的な流れ、履修するうえでのルール説明）
第2回	経済学を学ぶ前に
第3回	需要と供給の決まり方(1)
第4回	需要と供給の決まり方(2)
第5回	市場メカニズム(1)
第6回	市場メカニズム(2)
第7回	なぜ政府が必要なのか(1)
第8回	なぜ政府が必要なのか(2)
第9回	中間試験
第10回	経済全体の動きをつかむ(1)
第11回	経済全体の動きをつかむ(2)
第12回	お金の回り方を探る(1)
第13回	お金の回り方を探る(2)
第14回	税金と財政のあり方を考える(1)
第15回	税金と財政のあり方を考える(2)
第16回	期末試験

到達目標

- ・大学4年間の学修の最も根幹を成す経済学の基本を学ぶことで、広い範囲でその基本的な知識を活かすことができる。

履修上の注意

- (1) ふだんから経済に関わるニュースに関心を持つ
- (2) 第3回～第8回・第10回～第15回は授業冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを実施する
- (3) 第1回にこの科目の方針などを説明するので、必ず参加されたい
(ただし、第1回参加を履修上の条件としない)

予習・復習

- ・復習：次回の小テストに備えて学習した内容を見返す（80分）

評価方法

中間試験・期末試験（各32%）、小テスト（各3%＝計36%）の合計100%で成績評価する。ただし、出席回数（小テスト受験回数）が10回に満たない場合は成績評価されない。

テキスト

- ・教科書名：『高校生のための経済学入門』（ちくま新書336）
- ・著者名：小塩隆士
- ・出版社名：筑摩書房
- ・出版年（ISBN）：2002年（ISBN:978-4-480-05936-9）